

ただいま！おかえり！ 学童保育

小那比キャンプ
火の番は高学年の仕事

ただいま～

小那比キャンプ
川遊びは気持ちいい～

宿題もしっかり
がんばろう

源兵衛公園は
ぼくらのあそび場

楽しみながら
上手くなる



発行

2016年11月1日 第107号

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館
 発行人／鴻井 規子
 編集人／佐藤 明裕
 〒457-0805
 名古屋市南区三吉町6丁目17番地
 TEL／052-612-3370 (本部)
 FAX／052-611-9085
 URL／http://shakaikan.com
 E-mail／honbu@shakaikan.com

「イエスはその一人一人に手を置いていやされた」(ルカによる福音書 4章40節)

今年、名古屋キリスト教社会館(以下、単に社会館という)の事業のひとつ学童保育事業所である「ちどり児童会」が創立五十年を迎えました。伊勢湾台風の被災地でのキリスト者の救援活動がもとになって設立された社会館は、社会福祉法人の認可時の事業部門として、「名古屋キリスト教社会館保育部」と「隣保部」という二つの事業でスタートしました。もともと、この隣保事業とは、十九世紀後半、貧しい労働者が住むスラム地区に宗教家、大学生らがセツル(住まう)し、住民の生活改善などの援助をする社会改良運動を起源としています。その後、アメリカ、日本にも広がった事業で、これを日本式に表した言葉が隣保事業ということです。

社会館は、設立間もない時期は、様々な相談事業、地域の子どものための放課後のあそびやレクリエーション活動、学習支援などを、この隣保事業として行っていました。一九六五年頃、保育園を卒園する五歳児の母親から、「小学校に入ったら、学校が終わってからの時間、子どもをみてくれる人が誰もいない。社会館の保育園で預かってもらえないか」との要望が寄せられました。当時、外で働く母親が急激に増え、マスコミ共働きの家庭の子どもの放課後誰にも見守られない問題を大きく取り上げていました。「かぎっ子」という言葉は、当時マスコミが生み出したものです。

かぎっ子対策として、国では文部省(今の文部科学省)が、学校関係者と地域の公職者らで組織される運営委員会を実施母体とし、学校の空き教室を利用して、PTAらが子ども達のお世話をするという内容の「留守家庭児童会」という事業を打ち出しました。一九六五年、名古屋で四か所、モデルケースとして設置するという計画がたてられ、そのひとつとして千鳥小学校が候補にあがったのです。

この情報を得た社会館の植田望主事(その後、第二代館長)が、学校長やPTA役員らと相談を重ね、「放課後は、地域にあって子どもが集える施設」社会館を拠点とし、社会館の職員やボラ

常務理事 谷川 修

社会館は、設立間もない時期は、様々な相談事業、地域の子どものための放課後のあそびやレクリエーション活動、学習支援などを、この隣保事業として行っていました。一九六五年頃、保育園を卒園する五歳児の母親から、「小学校に入ったら、学校が終わってからの時間、子どもをみてくれる人が誰もいない。社会館の保育園で預かってもらえないか」との要望が寄せられました。当時、外で働く母親が急激に増え、マスコミ共働きの家庭の子どもの放課後誰にも見守られない問題を大きく取り上げていました。「かぎっ子」という言葉は、当時マスコミが生み出したものです。

三つの特徴は、学校長やPTAら学校関係者と地域公職者らで構成される「運営委員会」というものです。この運営委員会により構築されています。地域の子どものみならず、地域のみなさんで見る」という精神が息づいていることに、このちどり児童会の運営委員会が一定の役割を担ってきたのではないかと思います。

四つ目の特徴は、障がいをもつ子どもも共に生活し、育ちあいが行われていることです。

父母会設立は一九七八年と遅かったのですが、学童保育所の拠点となる場の建て替えに絶大な力を発揮してもらった。父母とともに歩み、高め、創り続ける事業体ともなっています。

教育哲学者の大田堯先生は、「本来教育は、一人ひとりのかけがえのない自己創出力を介添える、外部からの助成の営みであり、その人その人の持ち味を引き出すものです」と語っています。縛りのない自由な学童保育での子どもの生活は、まさにこの教育の場である。だから、これからの教育の場事業として続けていかねばと決意も新たにしています。

子どもの持ち味を引き出す

ちどり児童会が五十年間大切にしてきたこと

- ### 事業所紹介
- #### 発達センター部
- 南部地域療育センターそよ風 愛育診療所
 - デイサービス ACT
 - デイサービスみどりそよ風 障害児相談支援事業所そよ風
 - 発達センターあつた
 - 障害児相談支援事業所あつた
 - 発達センターちよだ
 - デイサービスちよだ
 - 障害児相談支援事業所ちよだ
 - 東部地域療育センターぽけっと
 - あいの風診療所
 - 障害児相談支援事業所ぽけっと
- #### 支援センター部
- 活動センターねーぶる
 - ヘルパーステーションぽけっと
 - ショートステイぽけっと
 - ぽけっと相談支援事業所
 - ホーム社会館
 - のどか・うらら・天歩
 - しやかいかん・いっぽ
 - 社会館障害者基幹相談支援センター
- #### コミュニティ
- #### ケアセンター部
- 菜の花保育園
 - 子育てセンターなのはな
 - 名古屋のびのび
 - 子育てサポート事業南支部
 - みどり菜の花保育園
 - 名南ユースセンター ACT
 - ちどり児童会
 - デイサービス友・デイサービス愛
 - 社会館居宅介護支援事業所
 - 小規模多機能つどい
 - 配食サービスゆうの里
 - ふれあいさろん

名古屋キリスト教社会館の使命

名古屋キリスト教社会館は、創立の精神に基づき、次の使命を担います。

1. すべての人々がかけがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していける社会を築くことをめざします。
2. 隣人とのあい、ふれあい、そだちあいを大切にし、ともに地域の課題を担うことを通して福祉の輪が広がるように努めます。
3. 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。

コミュニティセンター部特集

ちどり児童会 50 年 ～仲間とともによく学び、よくあそぶ～

「ただいま」「おかえり」で学童保育がはじまります。学童保育は、昼間保護者が仕事などではない家庭の子どもたちが放課後の時間を過ごす場所です。「第二の家庭」という雰囲気でもみんな兄弟姉妹のようです。そして、専任の指導員が子どもたちの安心・安全な生活を見守っています。

ちどり児童会では、帰ってくるランドセルを自分のロッカーに置いて、まず宿題をします。宿題が終わりみんなそろそろおやつの時間です。一、六年生の子たちが三つのグループに分かれて楽しくおやつを食べています。配膳などの準備やお皿洗いなどの片付けは自分たちで当番を決めてやっています。「自分たちでできることは自分たちです」ということも学童の生活の中で大切にしていることです。

学童での遊びは、こま・けん玉といった昔ながらのものや、集団あそび（かまいた、てんかくななど）、また、サッカーなど近くの公園に出かけて思い切り体を動かします。もちろん部屋で静かに本を読んだり、コッコツとモノづくりをするのもOKです。また「今日も〇〇くんとおそびたい」「明日も続きようね」と、仲間との継続的なあそびができます。

こまやけん玉では、技の上手な指導員や上級生に憧れ、夢中になって練習する子どもがいます。「空中手のせができたー」と初めて難しい技ができた時の表情はとても輝いています。大切にしたいのは、それまでの過程での「教え・教えられ」という異年齢での子ども同士の関わりです。そういった関わりの中でお互いにいい刺激を与えています。

学齢期の子どもたちは「遊び」を通して仲間との関係を築き、達成感や自信を深め、自己肯定感を獲得していきます。そして、そういった様々な経験がその後の生活を支える土台となっていくと思います。

子どもが自分で決める「主体性」を大事にし、仲間と協力し創造する行事づくり

ちどり児童会では、お泊り会、夏のキャンプ、水泳大会、お祭り、バザー、クリスマス会、サッカー大会、スキー、サイクリングキャンプなど季節ごとに行事を行っています。行事づくりで心がけていることは、主体的に行事にむかうことです。「どんなことがしたいか？」と子どもたちの意見を聞き、みんなで話し合いをしながら内容を決め

ます。そのことで楽しみや期待感をもって参加してほしいからです。

夏のキャンプでは、「カレーコンテスト」が大イベントです。食材やかくし味をグループで考え、事前に練習で試作品をつくりまします。「おいしいカレーライスをつくらう」と試行錯誤しながら本番にむかいます。役割分担も自分たちで相談して決め、高学年の男子が「火おこしはまかせろ」とはりきります。「じゃあ野菜切りはやるね」と低学年を組織して高学年の女子が仕切ります。「まき割りもやってみよう」と、初めての一年生にも教えます。上級生はみんなのために大変な役割を担い、下級生も自分でもできることをやり、初めてのことに挑戦します。仲間と協力しひとつのことに向かうことでやりとげた達成感は大きな喜びとなります。

地域の中で人とのつながりを大切に

毎年秋に、「学童まつり」を開催しています。ちどり児童会を地域の方に知ってもらい、様々な人と交流をしよう、ということが大きなテーマです。「学校の友だちに手紙をかこう」「保育園の子ども呼びたい」「学校の先生にも来てほしいよね」とたくさんの人が来てくれるようにアイデアを出し合います。

父母のみなさんも模擬店を出店します。学童での父母会活動を通じて親同士も親しくなり、子育ての悩みや子どもたちの成長を分かち合えるのも学童の良さです。また卒業したOBは、中高生や大学生、社会人になっても手伝いに来てくれます。幅広い世代の人が関わり、多くの人に支えられていることを感じ感謝します。これらも、この人と人とのつながりを大切にしています。

ちどり児童会 楠木 徹



知多半島一周サイクリング



児童会スキー合宿

ちどり児童会50周年記念 学童まつり ～あそびにおいでよ 僕らの学童へ～

●日時：11月6日（日）10：30～14：30
（15：00～17：00 50周年企画同窓会）

●場所：菜の花保育園園庭 ちどり児童会

●内容

- ・子どものあそびコーナー
※スタンプラリー景品あり
- ①対戦コーナー
（卓球、ホッケー、カードゲーム、ボードゲームなど）
- ②体験コーナー
（こま、けん玉、めいろ、やっとなど）
- ③つくるコーナー
（アイロンビーズ、プラバン、アクセサリ、おりがみ、ブーメランなど）
- ・舞台：式典
ちどり児童会の子どものダンス
「あそび屋こま名人」によるこま・けん玉の演技、みんなで歌おう思い出の50曲
- ・模擬店：焼きそば、炊き込みごはん、フライドポテト、ラーメン、唐揚げ、チョコバナナ、わたがし

ちどり児童会50周年によせて

家庭・学校・学童で

我が家は、小学校三年生の息子と一年生の娘が学童に通っています。コマやけん玉、カードゲームなど今までふれた事のない遊びに日々夢中になっています。

夏は水泳！忍耐力のない我が子が周りの友だちの影響もあり、親も驚くほどの距離を泳げるようになりました。

また、季節の行事（キャンプ、スキーなど）やそれに向けての話し合いも子どもたちの励みになっており、成長を感じます。

二人とも学校では「猫かぶりの優等生タイプ（笑）」で、家ではその間逆なのですが、学童ではどちらかというと家と同じように素を出して遊べているようです。親としては、そんな場所があって精神的なバランスを保っていることがありがたいです。

父母会長 間野恵美子

あそびが魅力の学童保育

ちどり児童会のお兄さんお姉さんが、毎年学童まつりやクリスマス会にポスターを持って誘いにきてくれます。ポスターを手に学童の子どもたちがちょっぴり照れながら「〇月〇日は学童まつりです」「〇屋さんをします」「きてください」という話を真剣に聞く保育園の子どもたち。前日、学童の保育室で行われたプレ企画に参加させてもらいました。段ボール迷路、アイロンビーズ、コマやホッケーなどのゲームコーナー、やり方を教えてもらい遊び大満足でした。お家に帰って楽しかったことを話し翌日の学童まつり本番も参加する家庭もあります。幼児にとつて学童期の遊びはとても魅力的。保育園では、楽しかった段ボール迷路づくりに夢中になったり、〇〇まつりと名付けてお店屋さんごっこに広がっています。同じ建物の中にある保育園と学童、これからもつながり関わりを持ちながら、お互いに子どもたちが遊びと仲間と場所の保障を大切に実践していきたいと思っています。

菜の花保育園 加藤 好美

聖書の言葉

「イエスはその一人一人に手を置いていやされた」
ルカによる福音書
四章四十節

イエス様のもとには
沢山の病人が連れてこ
られました。ここで
は「いろいろな病氣
で苦しむ者を抱えて
いる人が皆、病人た
ちをイエス

のもとに連
れてきた」
と記されて
います。病
人だけでな
く、病む人
を抱える人
たちの姿も
描かれてい
ます。イエ
ス様が病を
いやす力の
ある方と聞
き付けた人
たちは、夕暮れになっ
てやってきました。何
とかして病を治しても
らいたいという切実な
思いがあります。良い
薬があると聞けば、そ
れを手に入れようとし
ます。良い医者がある
と聞けば、そこに連れ
て行こうとします。医
療の発展していない当
時、病を抱えて生きる
ことは、とても大変な
事でした。本人も家族

「私たちへのエール」

できます。

病人を抱え
ている人た
ちもどんな
に慰められ、励まされ
たことであ
ろう。一人
一人の苦し
みを知って、その必要に、的確に
イエス様の
姿が伝わっ

イエス様は、福祉に
携わる私たちにも語り
かけておられます。福
祉を必要とする方の視
点から外れて、自分た
ちの考えや都合を優先
させてしまっているの
いかと。

(チャブレン

杉本美由紀)

「いのまちと暮らしたい」

西館二号館建設計画

西館一号館の西隣に、障がいのある仲間たちが地域で安心して暮らしていくための拠点を、つくる計画をすすめています。

支援センター部では、障がいのある青年たちが、地域の中で自立した生活ができるように、グループホーム、日中活動の場、休日の余暇支援をするヘルパー利用、家族と離れて生活する体験の場としてのショートステイ、困ったことを相談できる相談支援などの事業を行っています。



南区は、名古屋市でも高齢化が進む地域です。四十代～五十代の障がいのある方たちが、七十代～八十代の家族と暮らしているという家庭も多くあります。いつまでも家族と一緒に暮らしていくということにも限界はあります。とはいっても、一人暮らしをしたいと思ったり、グループホームで暮らしたいと思ったりしても、障がいのある人たちにとっては、そう簡単にできるものではありません。自分はこの暮らし方ができるのだろうか？と経験する中で、自分らしい暮らし方を見つけていかなくてはなりません。

行政も、地域生活支援拠点」という障がいの高齢化に対応し、地域で暮らししていく障がいのある方たちを支える拠点を一つつていくことを進めています。全国ではこのモデル事業もすすんでいます。

支援センター部としても、障がいのある方たちの支援をより手厚く進めていきたいと考えています。西館二号館が地域生活支援拠点として、地域の中で暮らししていきたいと願う仲間たちの支えになるように、これからこの計画を進めていきたいと考えています。

一階…障がいの重い仲間たちの暮らすグループホーム

障がいのある人たちが地域生活をしていくための計画作成や相談をする事業所

二階…暮らしの体験をする場としてのショートステイ三床を二か所緊急一時的に利用できるショートステイ一床

三階…夕方や休日の生活を支えるヘルパーステーション
多目的ホール

二〇一七年度には補助金の申請をし、二〇一八年度に建設
二〇一九年四月開所予定を目指しています。

ご支援をお願い申し上げます。

生活支援センターぽつと 神谷 友之

菜の花保育園

「パパ、ママいっしょにあそぼうね」



と肌を合
わせ心が
通い合う
ことの喜
びを感じ
てほしい
との思い
から、触
れ合い遊
びをし

菜の花保育園では名古屋市待
機児童対策を受けて、四月に西
館を建設しました。これにより
乳児は一〇名増での受け入れ
や、一時保育室や子育てセン
ター機能を充実させ、地域の方
たちと増々交流できる場を設け
ることができました。今年度、
〇歳児の運動会の取り組みを考
えるにあたり、日頃、仕事で忙
しい父母の方々に、子どもと肌
と肌を合
わせ心が
通い合う
ことの喜
びを感じ
てほしい
との思い
から、触
れ合い遊
びをし
てみようとなりました。子ども
たちは、そばにお父さんやお母
さんがいることで安心し、月齢
の低い子もケタケタと声をあげ
て笑っていました。その子ども
の様子を見て父母の方々も笑い
あい、保育室が優しい空気に包
まれていたように思います。子
どもがどんな風に感じるのか体
感してほしいと、大きい布の中
に親子で入ってもらい「大風こ
い」をしています。お母さんた
ちも子どもと同じように、大き
い布がひらひらと揺れる様子を
見ながら歓声をあげていまし
た。こんな風に親子が目と目を
合わせて遊べるのが、休日の
ほんのひと時にでもあったら
いいなあ…と今年の運動会を通し
感じました。

菜の花保育園 酒本 恵子

デイサービス友サテライト事業所愛

季節を感じる「おはぎ作り」

デイサービスのご利用者さん
はお若いころから日本の四季
折々の暦に合わせた生活文化を
大切にされています。

日常の会話の中にも「梅干し
は毎年必ずつけたよ」「ぬか床
はどこか家にもあったよ」と、
昔話に花が咲きます。

「今はもうできないから何に
もしてない。」とも言われるの
で出来るだけ季節感のある取り
組みをしていきたいと思ってい
ます。

九月のお彼岸には皆さんでお
はぎを作りました。
二人ずつでペアになりご飯を
つぶし、まん中にあんこを入れ
て俵型にし、周りに甘いきな粉
をかけるという名古屋流のスペ

シャルな
おはぎで



「デイ
サービスの
友さんの
分も作っ
てあげな
いといか
ん」と、とても張り切って六人
であつという間に四十個ほどの
おはぎができました。

おやつでいただきましたが「美
味しいね」「やっぱり手作りは
いいね」とお腹も心も満足され
ていました。

デイサービス友
サテライト事業所愛

久納 満喜

コミュニティケアセンター部近況

報 告

◆FUKUSHIMAリフレッシュキャンプ IN ぎふ

行ってきました3年目 小那比 8/17～8/23

郡山市から7人、いわき市から5人の子どもたち総勢12人の小学生が参加。3年目を迎える子どもたちはすっかり大きくなりました。天候に恵まれ、たっぷり川遊びを満喫。5日目のキャンプファイヤーで見上げた夜空は、満天の星空。吸込まれんばかりの夜空に大感激でした。今年は、たこ焼き、ホットケーキ、竹プリン、竹パンづくり、焼き板づくりと幾つも挑戦しました。



子どもたちとエネルギーに6泊7日遊び、生活を共に過ごした愛知キャンプカウンセラー学生3人に感謝です。「来年も来たい、来るよ!」の言葉に力をもらい、福島の実況に思いをはせ、次年度の再会を胸に刻みました。法人役職員、ボランティア、職員総勢28人の大きな協力と、多くの方からの寄付により運営ができたことを感謝いたします。ありがとうございました。(法人事務局 渋谷文平)

◆あったかカーニバルVol.13開催

発達センターあつたでは、2016年9月3日(土)にあったかカーニバルvol.13を開催しました。当日は約650名のたくさんの方にご来場頂き、良い天気に恵まれ、舞台プログラムや模擬店も大いに盛り上がりしました。OBの子どもたちや親御さん、旧職員など、懐かしい顔ぶれとの再会もあり、あったかいお祭りになりました。

協賛、出店頂いた皆様、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。ご来場頂いた皆様、ありがとうございました。来年もぜひお待ちしております。

今後も、地域の皆さんと一緒に活動していきたいと思ひます。

(発達センターあつた 尾藤菜摘)

◆緑ぼけまつり開催

東部地域療育センターぽけっとでは隣接する施設・緑風さんと合同で、9月10日(土)緑ぼけまつりと題してお祭りを開催しました。利用者さんや地域の方々、およそ1000人の参加で盛況に行われました。



地域のコーラスや中学校のブラスバンド部の参加もあり、より地域とつながってきている事を実感しました。ご協力くださった関係者の皆様、参加下さった皆様、ありがとうございました。(東部地域療育センターぽけっと 太田 豊)

◆9月26日社会館創立56周年記念全体職員会研修報告

会場：名古屋国際センター

記念講演：「当事者研究から学ぶ ～私たちのエンパワメント～」

講師に、北海道浦河教会に通う統合失調症などを抱える若者たちの起業から始まった「浦河べてるの家」から向谷地生良氏(北海道医療大学)と利用者の亀井さん、伊藤さんに参加していただきました。当事者研究のスタートは、日常生活の困りごとや出来事を自由自在な対話を通じて行い、その成果を仲間と共有するものです。後半は社会館の職員も参加し、自らの困りごとを具体的に語る中で、自らを振り返る演習も取り入れられました。日々、人と接しながら、語る動きを担っている私たちの動きを振り返る場となりました。職員、役員他外部からの参加者を含め二百数十名の参加で研修を行い良い学びの場となりました。

その後の創立記念式典では、礼拝と40年、20年、10年の永年勤続者10名の表彰を行いました。(法人事務局 渋谷文平)

◆韓国ソウル女子大学の学生さん来訪

韓国ソウル女子大学のグローバルサービスラーニングプログラムの一環として、昨年度に引き続き6名の学生さんが社会館にやってきました。8月19日から27日にかけて菜の花保育園をはじめ社会館の6つの事業所で日本の福祉事業を体験しました。

それぞれの事業所の利用者さんや職員との触れ合いを通し、多くのことを学んでいただけたようです。最終日には職員とも交流し、学びの喜びを涙で語られた学生さん。私たちも日本と韓国の交流の大切さを実感しました。(南部地域療育センターそよ風 金武勝己)



2016年度 社会館バザー

テーマ：広げよう！地域の輪 ★社会館バザー 2016★

開催日時：11月23日(水・祝) 10:30～14:30

今年はより多くの皆さんに楽しんでいただけるように会場を見直しています。おいしい食べ物、楽しいイベント盛りだくさん！掘り出し物もいっぱい！マイ箸、マイバッグ、靴袋の持参にご協力ください。

【今年度の重点目的】

◎西館二号館建設にむけての資金づくり

(障がいのある方のヘルパーステーション・

ショートステイ・グループホーム)

バザー物品を募集します

ご家庭で眠っている物品がありましたらご提供ください。

連絡先 菜の花保育園 TEL 612-3361



「(に)こにこと (し)ゃかいかんで(か)たろう みんなのみらい なつまつり2016」

4月にオープンした『西館』を取り入れた素敵なテーマのもと、8月27日に第35回社会館夏まつりが開催されました。今年の全体企画は、各事業所で作ったオリジナルうちわを持ち寄って、「えがおキラキラ」を踊りました。個性あふれるオリジナルうちわが広がり、一体感あふれるお祭りとなりました。

地域の方々の参加も年々増えています。来年度も多くの人が楽しめるようなお祭りにしていけるよう、今年度の反省を活かしていきたいと思ひます。ご支援・ご協力ありがとうございました。夏まつり実行委員会事務局

みんなで祝うクリスマス

日時 2016年12月3日(土) 14:30～16:00

会場 菜の花保育園3階ホール(南区三吉町6-17)

参加費 一人200円(お茶とシュークリーム付き)

今年は女性ヴァイオリニストとして活躍中の高由美さんによる演奏会。美しいヴァイオリンの音色とピアノのアンサンブルです。お子様連れの方も、どなたでも大歓迎です。お申し込み/法人事務局(052) 612-3370

メールの方は honbu@shakaikan.com

*受付メ切 11月30日(水)

クリスマス献金のお願ひ

救い主イエスのご降誕を世界中の人々と共に喜び迎えたいと思ひます。クリスマスの時に、かけがえのない命が大事にされる平和な社会形成を求めて歩むことを心に刻み、祈りたいと思ひます。社会館には、そのことを願ひ、制度上保障されない働きがいつもあります。それら事業を支えるためのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

【クリスマス献金送付先】

振込先 郵便為替 00840-3-1576

口座名 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館

名古屋キリスト教社会館は今年で法人創立五十六年。そしてちどり児童会は五十年を迎えます。半世紀の間、地域と共に歩んできた歴史の重みはすごいものだと改めて感じます。そして単に放課後を過ごす場というだけでなく、子ども一人ひとりが地域を形作る住民として大切にされながら、子どもたちが地域の中で育ち成長していくための教育を成す。それが学童保育ならではの良さなのではないかと学びました。(A.S.)

編集後記

苦情申し出の窓口

苦情の申し出窓口は、各事業所掲示板等に掲示しています。苦情受付者は主任、解決者は事業所長が基本です。

法人への苦情は、
本部事務局
612-3370
へお願いします。

また、法人職員ではなく、第三者の立場として苦情を受け、より良い解決へと導く立場の者として、第三者委員を選任しています。

第三者委員は、
仲田 伸輝 821-0570
小林 冴子 611-0401
湯浅 登 0562-83-4407



献金・協賛報告

ご協力頂いております方々のご芳名を掲載し、報告とお礼とさせていただきます。

(敬称略・順不同)

二〇一六年七月十五日

十月十八日まで

一般寄付

愛知西部地区教会婦人会連合 岩崎

暁子・石橋満・勅使千鶴・岡村恒義・

大橋洋子・岩田悦・杉江幸茂・株

式会社八勝館 杉浦香代子・伝道

肇美由紀・梅津ヨシ子・木村艶子・

原千賀子・賀屋哲男・那須田宏・

榎本久美江・日本基督教団広路

教会婦人会

〔熊本震災支援指定〕

瀧川裕康・磯部徹・渡邊綾香・佐

竹敬子・高着登希江・長谷川百合

子・近藤直子・大岡孝司・真木芳子・

岩田悦・金山学・荒竹ひろみ・田

中武之・松原真奈美

〔支援部指定〕

松本光一

〔そよ風指定〕

林和美

〔西館建設指定〕

白石淑江・社会館募金委員会・神

谷友之・あそびうたセミナー・山

口里子・渋谷文平・加藤淳・伊藤

輝人・福武馨・海老原リキ・海老

原真二・蛭屋淳一・長田圭子・小

林恵美子・浅井純二・杉本節子・
杉江幸茂・小林冴子・渡邊綾香・
岡村恒義・高着登希江・樋田玲子・
松田チサ子・武田美和子・穴戸健
夫・宮本貴夫・田村富士雄・活動
センターねーぶる・社会館募金委
員会・菜の花事業部・金山学・黒
越睦子・安藤京子・島田佳苗・川
口桂子・赤塚裕美子・平尾小夜子・
数百合子・神谷辰男・名古屋神召
キリスト教会・尾崎信・高輪部職
員一同・白川愛子・本多剛・馬場
喜代江・吉田正樹・小宮一子・松
原真奈美・高木瑞菜・長田圭子
〔クシマリフレッシュキャンプ指定〕
〔アジャスト〕瀧川裕康・小林冴
子・磯部徹・渡邊綾香・高着登希江・
丹波雅弘・近藤直子・真木芳子・
原和美・岩田悦・田村富士雄・成
田節子・恒川修・黒越睦子・石川
三枝子・赤塚裕美子・荒竹ひろみ・
名古屋岩の上教会・田中武之・加
藤峯子・小宮一子